

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 3月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	4072300553		
法人名	医療法人 城戸医院		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地 (電話番号)	福岡県八女市室岡字中道1099 - 2		(電話) 0943 - 24 - 6161

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(20年 2月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	19人, 非常勤 2人, 常勤換算 16.4人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	新築 / 改築
建物構造	木造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	33,000 円	その他の経費 (月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (11月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護 1	2 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	3 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.111 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八女公立総合病院 筑後市立病院 大石歯科医院
---------	------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな住宅地内の見晴らしの良い高台にデイサービスと併設のグループホームけやきがある。ホームの前の道は地域住民・幼稚園児の散歩コースで日常的な挨拶や会話を交わすなど交流の場となっている。また、ホームの敷地内に畑を作り、地域の方と利用者が一緒に季節の野菜作りを楽しんでいる。建物は木造作りで、内部は手摺が取り付けられており、バリアフリーで車椅子でも自由に行動できるよう十分な広さを取っている。窓は広く自然光が入りとても明るい。1,2階の窓からは茶畑や新しく開通されるバイパスなどが見渡せる。地域住民とドッグセラピーチームを立ち上げ、動物と触れ合う時間をつくり、身体のケアだけでなく、心のケアにも努めている。医療面の対応も母体が医療法人のため、充実している。自宅復帰を目標の一つに掲げ、自宅と同じようなペースで安心した暮らしができるように施設長を初め管理者、職員が理念を理解し常に向上心をもってケアを行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>前回の改善課題は一部の職員が幼児語で利用者に話しかけていたことや、注意が必要な物品の保管場所等が改善課題であったが、会議やミーティング等で改善課題の周知徹底及び協議を行い、積極的に改善に取り組み全て改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>全職員が自己評価の意義を理解し、認知症の介護のプロとして意識を持ち、理想とするホームに近づけるよう積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、利用者家族、民生委員、町内会長、施設長、職員が参加している。議題はホームの現状報告、行事内容、ピリハット、外部評価の結果などを報告し、意見を聴いたり、討議したことを勉強会等で十分に検討し、サービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映 (関連項目 :外部8,9)</p> <p>定期的に家族会を開催し、意見交換を行ったり、職員と直接話し合う機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置したり、家族の訪問時に話し合うなど、努力がなされている。家族への報告は毎月、日頃の様子をホーム便り、金銭管理の報告書と共に報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)</p> <p>地域行事に参加するとともに、けやき新聞の配布やけやき祭の開催を実施している。またボランティア団体のドッグセラピーチーム「フレンドリー」の事務所を施設内に立ち上げ、気軽に立ち寄ってもらうなど、地域交流への取り組みがある。近隣の幼稚園児との日常的な挨拶や何気ない会話、地域住民との園芸作業など普通の付き合いが行われている。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「第二の我が家のホーム 生きがいのあるホーム 開かれたホーム 家族と一つになれるホーム」という理念がかかげられており、利用者職員が共に生活していく上で大切な利用者の尊厳、地域との連携、温かい雰囲気づくりなどを具体的に分かりやすく表現した理念になっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時には必ず理念について触れ、名札の裏にも理念を書き込むなど理念の浸透に向けた取り組みがなされている。また、ケアに対する思いは十分に職員に浸透しており、日々のケアに活かされている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの幼稚園・小学生が立ち寄ってくれたり、園芸や畑の手入れ、草取りなど近隣住民と談笑しながら行われ、散歩の時に声をかけたりかけられたりと、地域との交流は盛んである。また、ボランティア団体の「ドッグセラピーチーム『フレンドリー』」の事務局を施設内に設置し、気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、職員は外部評価の意義を理解し、前回の評価結果の改善点を検討し、改善シートを作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者家族、町内会長、民生委員、施設長、職員などの参加がある。利用者の暮らしがよりサービス、行事予定、ピアリハット、外部評価の結果などを報告し、意見を聴いたり、討議したりしサービスの質の向上に努めている。		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは顔なじみであり、何かあればすぐに相談に行っている。担当者のかたも気軽に相談にのってくれ、アドバイスをしてくれる。また、情報交換を行なうなど連携を図っている。また、八女市いきいきサロンへの職員派遣も実施している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	研修会や勉強会等に参加し、管理者や職員は地域権利擁護事業や成年後見制度に関する知識の共有を図っている。現在、成年後見制度の活用も支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に心身の状態や活動内容、職員の異動などを報告し、金銭管理では残高、出納帳の確認をもらいサインをもらっている。また、毎月「けやき新聞」を発行し利用者の暮らしぶりを報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見交換を行ったり職員と直接話し合う機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置し、意見や思いなどを吸い上げ運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム独自の職員評価表で報酬に反映及び有給休暇の消化、職員同士での親睦会等コミュニケーションが取れるように推進し、離職しないよう働きやすい環境づくりに努めている。やむをえない異動や離職の際は、引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、事前に利用者およびその家族に伝えて		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集、採用に際しては、性別や年齢の制限はなく、職員の休みや勤務交代にも柔軟に対応し、施設長・管理者が個別に悩みや相談にも応じ、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々職員の言葉使いや行動等に尊厳を傷つけるようなことがあれば注意し、研修会やミーティング等で常に話し合っ人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修や外部研修を受ける機会があり、研修内容を全職員が共有できる仕組みがある。また、全職員に対して、段階に応じた研修があり、職員を育成するための具体的計画がある。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協議会に加入し、協議会が開催する勉強会や研修会に参加し交流する機会を持ち、サービスの質の向上を目指している。また、福岡県高齢者グループホーム協議会にも加入している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設の通所介護や体験入所を利用することにより職員や他の利用者、ホームの雰囲気徐々に馴染め、利用者や家族が納得した上で入居できるように支援している。また、職員が自宅に訪問し馴染みの関係を作り利用者へ安心感を持ってもらうよう努めている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	職員は利用者と一緒に過ごす中で、一人ひとりの気持ちを受け止め理解しようと努力している。また利用者の得意分野で力を発揮できるような場面作りや声掛けを行い、互いに支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者の日々の行動の中で意向を把握したり本人とのコミュニケーションを取る中で思いや希望を把握するように努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	サービス担当者会議では介護計画について、家族、職員が参加して日々の関わりの中で本人に対して気づいた点、本人の意向について話し合いはできているが、サービス担当者会議録に利用者の参加が書かれていない為、確認が取れない。		可能な限り本人参加のカンファレンスが望ましい。尚、参加が出来ない場合は事前に本人から聴取した内容をサービス担当者会議録に記載し、本人の意向を代弁することが望ましい。
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	毎月、ミーティングでモニタリングを実施し、計画の継続または、変更の必要性を話しあっている。計画は概ね1年間で見直しを行い、変化がある場合はその都度見直しを行なっているが、介護計画を家族に説明した日付や確認印がないものが見られた。		利用者、家族からの介護計画の了承を得た日付の記入および署名捺印を確実にもらうことが求められる。

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経営母体が医療法人であり 緊急時や医療面のサポートはしっかりできている。入居に際して併設のデイサービスを利用したり 体験入居を利用したりと、本人や家族の要望に応じた対応がなされている。利用者が望む理美容院や病院受診への支援もおこなわれている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしてのかかりつけ医があり 24時間オンラインで対応できる体制をとっている。また、看護師を配置し、毎日健康状態を報告するなど医療連携体制ができている。以前からの利用者の馴染みのかかりつけ医の受診についても対応可能である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針が作成されており、入居時に全家族に説明し、承諾を得ている。重度化した場合や急変が予測される場合は家族・主治医を交えてその都度協議し、方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉掛けも丁寧で、目線をあわせ対応している。個人情報記録等は各階の事務所で保管・管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なスケジュールはあるが、個々の利用者の生活リズムに配慮して、食事にかかる時間や、居室やリビングでの過ごし方など、利用者のペースを大切にしながら支援している。		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じ食事を同じテーブルで摂りながら、家族的な雰囲気の中でそれとなく本人の摂取状況に応じた声掛けなどして、対応している。また食事の準備や後片付けも利用者の能力に応じ手伝ってもらっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりに合わせ毎日入浴出来るように支援している。入浴を拒否される場合でも、タイミングを見計らって声掛けを行い、無理強いすることなく入浴を楽しめるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、利用者の生活歴や能力に応じて、食事の準備、片付け、掃除など一人ひとりの力を活かした役割、また生け花、園芸、創作活動、散歩を行なうなど、楽しみへの支援がある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の希望にそって散歩、買い物に出かけたり季節ごとの花見やドライブ、正月には初詣に出かけたりしている。また、家族と一緒にの外出など支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活を尊重し、基本的には全室、玄関などの出入口の鍵はかけていない。常にスタッフの目配りがなされている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと年1回以上避難訓練を行い、事業所独自では、毎月1回、夜間想定等の訓練を実施している。避難場所も周りが広々とした空間になっていて安心である。また、運営推進会議・町内会長等を通して近隣住民に見守りや声掛けをしてもらえるよう働きかけている。		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量は、全利用者分を記録している。主治医、管理栄養士、看護師の指導も受けながら、適切な栄養摂取となるように個別に対応している。また、献立は季節や利用者の嗜好を考慮して作成している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者制作の作品を共有空間に飾り、また居間には数人で座れるソファを配置し、テレビを見たり利用者がくつろげるように工夫している。台所も対面式なので利用者と会話をしながら食事の用意をしたり見守りをしている。食堂兼居間にウッドデッキがあり、緑の木々を見ながら日光浴ができる居心地良い場所となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン・カーテン以外は全て持ち込みになっており、利用者の馴染みの物や家族写真、ベット、筆筒、飾り物を持ち込み、各居室からは個性が感じられ、本人が居心地よく過ごせるようになっている。また、本人や家族と相談の上、フローリングを畳みに変更することも可能であり、思い思いの居室空間を作れるように取り組んでいる。		